

平成 30 年度第 2 回島田市文化芸術推進協議会 議事概要

1 日時 平成 30 年 10 月 12 日（水） 午後 2 時～午後 4 時

2 場所 市役所本庁舎 4 階 第 3 委員会室南

3 出席者

(1) 委員

松本委員、森澤委員、岡村委員、小栗委員、岸委員、高橋委員、沼田委員、松永委員、山本委員（10 人中 9 人出席）

※欠席委員 片川委員

(2) 事務局

教育部文化課 太田課長、新聞課長補佐、石間主査、杉野主事

(3) 傍聴者

1 名

4 概要

(1) 開会

(2) 会長挨拶

- ・文化芸術基本法が平成 29 年に制定され、食文化を含む等文化政策の範囲が広がった。
- ・まちづくり、環境、福祉、教育、観光等との連携も明記された。
- ・本協議会の委員は、多様な人材で構成されているという印象がある。
- ・様々な分野で活躍されている方々で構成されているという本協議会の特徴を活かすためにも、誰もが気軽に発言できるような雰囲気での協議を行っていきたい。

(3) 報告事項

次の点について事務局から報告した。

- ・10 月 3 日に島田市文化芸術推進計画策定ワーキング（以下「ワーキング」）を開催した。静岡文化芸術大学文化政策学部の松本教授、高島准教授がアドバイザーとして参加し、市民等意識調査票の原案について協議を行った。
- ・10 月 10 日には島田市文化芸術推進計画策定委員会（以下「策定委員会」）

を開催し、調査票についてさらに深めた協議を行った。

- ・市民等意識調査の設問については、本協議会での意見を反映したものを策定委員会に諮り、決定する。
 - ・事前に配布させていただいた調査票が、ワーキングでの意見を反映させ、原案を修正したものになる。
 - ・本日配付したものは策定委員会での意見を反映させたものであり、現時点での最新版となる。
 - ・本日は現時点での最新版について協議を行っていただきたい。
 - ・本協議会はワーキングや策定委員会の意見に左右されることなく、皆様の専門的な視点、経験から、協議を行っていただくため、ワーキング及び策定委員会で述べられた意見については報告を控えさせていただく。
- ※委員からの意見等はなし。

(4) 協議事項

市民意識調査票（案）、事業所意識調査（案）、ヒアリング項目（案）について、委員から意見が述べられた。

- ・文化芸術振興基本法に比べ、文化芸術基本法の文化を捉える範囲は広がった。観光、福祉、食、教育等との連携を考えながら、計画を策定しなければならない。
- ・事務局、ワーキング、策定委員会、アドバイザーが意見を出し合い、作成した調査票の案が配付されているが、より良いものにするため協議を行いたい。

ア. 市民意識調査票（案）について【資料1、4】

市民意識調査票（案）について事務局から概要の説明をした。

- ・調査票の配布対象は、市民から無作為に抽出した3,000人。
- ・文化芸術に対する考え方、関心の度合い、活動状況等、現状の把握をするとともに、調査票の設問に答えることで、文化芸術への関心を高めることも目的としている。
- ・回答方法は主に選択式、設問数は15問程度を想定している。
- ・前文では文化芸術基本法の趣旨、島田市における計画策定の目的等を説明している。

※「○」委員からの意見・質問等 「→」事務局からの回答等

○市民意識調査の対象者は何歳以上か。

→18歳以上。

- 市が行う調査はすべて18歳以上か。
- 学校ではスポーツに比べ、文化芸術への関心は低い。先生方の意識改革も必要だと思う。学生を対象とした意識調査はできないか。
 - 総合計画のアンケートでは中学生、高校生にアンケートを実施している。これからを担う若者の意見をどう把握し、計画に活かしていくかを検討していく必要があると思う。今回の意識調査が終了した後、若者向けの意識調査について検討していきたい。
- 現在配付している市民意識調査票をそのまま学生に実施することは可能か。
- もっと簡単な設問にし、選択肢は「良い」、「悪い」、「どちらでもない」の3つくらいがいいと思う。音楽に関してもバンド活動や弾き語りだけでなくバーチャルの世界で楽器演奏等を行っている若者も多い。若者を対象とした意識調査では回答する際の選択肢を工夫して欲しい。
 - 協議会の総意として、学生向け意識調査を実施すべきと策定委員会に報告し、ワーキングでの協議へつなげていきたい。
 - 年齢に偏りなく、様々な市民の意見を反映すべきだと考えている。
- 静岡県には静岡文化芸術大学があり、若者がステップアップしやすい環境が整っているといえるのではないか。若者が夢を描きやすい環境を整えることが大切だと思うが、学生が実際どのようなことを望んでいるのか、大変興味がある。
- 海外に目を向けている学生もいると思う。
- 子供たちが夢を描ける環境を整え、活躍する場を作ってあげることが大切だと思う。
- ここ数年で学生の意識は変わってきている。Eスポーツ(エレクトロニック・スポーツ)は文化か、スポーツか、話題になっている。
- 計画の見直し期間はどのくらいか。
 - 市の総合計画に合わせた見直しを予定している。初年度は総合計画の見直し年に合わせ6年間で計画期間としている。
- 市民意識調査票は世帯単位で送るのか、個人に送るのか。
 - 個人に送ることで進めている。
- 問4の居住年数に関する質問は通算で答えればいいのか。
 - 島田をどのくらい知っているかということ把握するために設けた設問であるため、通算でいい。
- 問5の回答欄は数字にしてあるが、意味があるのか。
 - 集計を効率的に行うために番号を記載している。
- 数字は重要度等を意識させてしまう恐れがあるので、イロハでもいいのではないか。

- 集計上、記号であれば問題ない。数字以外に変更することとする。
- 参加、鑑賞、創作がまとめて一つの選択肢になっていると、回答する側は迷うのではないか。参加と創作では活動する人の意欲が違うと思う。参加・鑑賞は受け手側、創作は積極的に提供する側になると思うので、「参加・鑑賞」と「創作」を分けた方がいいのではないか。
 - まったく関心がない人がどのくらいいるのか把握する必要もあると思う。
 - 施設での活動と自宅での活動を分けた方がいいか。
 - 分けたほうが良いと思う。問5の回答は複数選択可ということでいいか。
- 複数選択可とする。
- 選択肢に自宅での活動を含めているのは、島田市に大きな文化施設がないからか。
- 大きな文化施設の有無にかかわらず、活動方法は様々であると考え、設問の選択肢を施設等での活動と自宅での活動を分けた。
- 島田市に今大きなホールがないことは問題ではないと思う。島田市民にとって文化芸術とは何かということを明確にしてから、どのようなホールが期待されるのか検討した方がいいのではないか。
 - 基本計画があつたうえで、施設の検討をする必要があるのではないか。
 - 次世代を担う若者の意識調査の結果をみてから、ホールの検討をしても遅くはないと思う。
 - 左から「施設での創作」、「施設での参加・鑑賞」、「自宅での創作」、「自宅での参加・鑑賞」の順番でいいのではないか。
 - 自宅での鑑賞とはどのような場合か。
 - 自宅で映画を見たりすることが該当すると思う。
 - 運営に関わったとは、どういうことか。
 - 専門的には政策的な関わりを意味すると思うが、例えばコンサート会場の入口でのチケットをもぎる人や駐車場係等も運営に関わっていることになると思う。
 - 講習を受けた市民がチケットもぎり等をボランティアで行っている市町もある。ボランティアとして参加することがステータスになる人も聞いたことがある。もぎりや駐車場係だけでなく、照明や音響等の担当を市民ボランティアでやっている市町もある。
 - 仕事として参加した人とボランティアで参加した人では意欲の差があると思うが、選択肢を分ける必要はないか。
 - 「運営にかかわった」という選択肢はボランティアを前提としているか。
- 特にボランティアか否かの前提は決めていない。無償、有償、仕事等どのような形であっても、運営することに関わりを持った人に○をつけてもらい

たい。

- 選択肢がこのままでは、駐車場係で参加した人は「運営に関わった」に○を付けないと思う。
- 選択肢を細かく分けることで、混乱を生む可能性もある。
- 創作する側、鑑賞する側以外にも運営に関わっているスタッフもいる。鑑賞者、創作者以外に関わった人を把握することも今後の施策を検討していくために、必要だと思う。
- 非常に難しい問題だと思う。このような意見があったことを策定委員に伝え、結論を出してほしい。
- 事前配付資料の方がなじみ深い印象。島田大祭、茶まつり等が文化として示してあった方が答え易いのではないか。ポップスやロック等が例示され、これも文化といえるなら「私も文化に関わりを持っている」と思える。なじみのない項目が最初に出てくると「文化・芸術は自分にとって縁遠いもの」と考えてしまう。
- 文化の捉え方は様々だと思うし、人の営みすべてが文化だと思う。問5に地域文化（島田大祭、茶まつり、神社仏閣等）を追加してもいいのではないか。この意識調査に答えることで、自分がどう文化に関わっているかを気づいてもらうためには必要だと思う。
 - 修正前の設問は、設問数が多く、分類がバラバラであった。県や国とのアンケートの項目と合わせて比較をしたい。文化は人それぞれ捉え方が違うと思うが、自分には関係ないことと思われてしまうことを避けたい。関わりが多そうな分野を選択肢の初めの方に配置するように修正する。
 - 調査票のサブタイトル<文化・芸術を活用して人生を豊かにするための計画策定に向けて>は他人ごとではなく、文化芸術が全ての人の人生に関係するものであることを伝えるためにある。
- 選択肢7「文化財、遺跡等の見学・学習」を選択する人は少ないと思うので、終わりの方で良いのではないか。
- 問7の選択肢について「体に障がいがあるため」等入れた方がいいか。
 - 難しい問題。障がいがある人は活動できないという前提での設問になってしまう可能性がある。
 - 文化団体等へのヒアリング調査では福祉団体も対象とする予定であるため、そちらで意見を伺いたい。
- 問8は「島田らしさ」について、より多くの地域資源を引き出すことが目的。選択肢は少なめにして、「その他（自由記載）」に多くの記載をしてもらうことを期待している。
- 事前配付資料の方が選びやすいように思う。分類する必要はあるのか。

→回答者が「島田らしさ」について地域資源を分類ごと整理し、考えるきっかけにしてもらいたい。分類ごとに「その他（自由記載）」へ記載してもらうことが理想。

○分かり易く分類されていると思う。

○問9について参加、鑑賞、創作が一緒になっているがいいか。

○「取り巻く環境」についての設問となっているのでいいのではないか。

○問10について、交通アクセスについての選択肢がないがいいか。

○バリアフリー等の選択肢も必要ではないか。

○回答数の多いものが計画に反映されるのか。

→3,000人に対し回収率4割程度であれば、おおまかな傾向が掴めると考えている。回答数の多いものを反映するわけではなく、傾向を掴むことが目的。島田の傾向と国や県の傾向を一部比較することを念頭に、国や県等で行っている類似の調査に対応する、設問をつくった。

○国が行ったアンケートと比較できるということか。

→同じ設問では他の設問との整合性がとれなくなるので、出来る限り比較できるような設問にしたいと考えている。

○一人一人が何を考えているか把握することができれば面白い調査になると思う。どの設問でも「その他（自由記載欄）」が一番聞きたいことだと思うので、その他が書きやすいように工夫してほしい。

→問3を設け、各設問と地域をクロス集計できるようにしている。地域による特性を把握したい。

問14や15のような島田市全体を捉え、将来像をイメージしていただくような設問も設けた。

○来年度はラウンドテーブル（1人の発表者と数名の参加がテーブルを囲み、発表者のテーマに即した意見交換を行う。ファシリテータが進行援助。参加者もテーブル内で自由に発言するため活発な意見交換が期待できる。）のような形で、協議を行うことも検討していきたい。

→計画を策定することが主な目的だが、市民の関心を高めることも目的の一つである。協議の方法も検討していきたい。

○プラザおおるり（旧島田地区）が会場となる市民文化祭の来場者は昨年度約7,000人。夢づくり会館（金谷地区）が会場となる夢づくり展には約3,800人。島田地区と金谷地区の人口比率と考えると市民文化祭への参加者が少ないように思う。老人クラブ連合会や企業の福利厚生の一環としてステージ発表等を行ってもいいと思う。魅力ある文化祭の開催についても計画に盛り込みたい。

○文部科学省から、学校宛に地域文化に親しみ、地域との関わりを積極的に持

つよう通知が出されている。市民文化祭が開催される時期は多くの高校で文化祭が開催されている。市民文化祭と高校の文化祭を交流させたら、参加者が増えるのではないか。

○今年度の市民文化祭のポスターは島田工業高校の生徒の作品。毎年、市内高校美術部にポスター用の作品の制作をお願いしている。高校生にも自分が文化祭に参加しているという意識を持ってもらうために始めた取り組み。ポスターに選ばれなかった作品は市民文化祭で展示をする予定。高校卒業後も市民文化祭へ参加したことを思い出し、文化活動を続けてもらいたい。

○高校生は書道部門への応募が多い。各高校に出展をお願いしているという経緯がある。その他の部門でも若い人たちへの働きかけをしていかなければならないと感じている。

○文学については「文芸しまだ」という冊子があるが、文芸作品、小説、随筆等作品の応募は少ない。市民の感性を文章に書いて留めておくという素晴らしい文化をアピールしていきたい。

○本協議会は計画策定の為だけにあるのか。

→計画策定のためだけではない。今年度、来年度は計画策定のための協議が多くなると思うが、市民文化祭等島田市の文化・芸術について幅広く協議していただくための組織である。

○「フェスタしまだ」はどうか。

○市民文化祭より規模も小さく、来場者も少ない。

○掛川市は「かけがわ茶エンナーレ」の開催等をしており、市外からの集客も見込んでいる。島田市は市民のみを対象とし、市内の充実のみでいいのか。

○交流人口の増加は重要だと思う。

○関係人口の増加も必要ではないか。

○島田市には都会の人が憧れるような古民家が多いのか。

→島田市というより大井川流域に多いと思う。

○田舎を持っていない都会の人が、帰省する田舎の代わりに月2、3日滞在するというような状況を作ることが大事だと思う。

○島田市にインターチェンジはあるか。

○新東名島田金谷ICがある。東名用賀ICから2時間半弱で来ることができる。

○そういった利点を文化芸術の活用にも取り込んでいきたい。

イ. 事業所意識調査票（案）について【資料2、4】

事業所意識調査票（案）について事務局から概要の説明をした。

・市内500程度の事業所に送付する予定。文化芸術をどのように捉え、どのよ

- うな関わりを持っているかを把握したい。
- ・経済的な支援、活動場所やマンパワーの提供等支援の現状や考え方について具体的に把握をしたい。

実際に文化芸術を活用した事例について委員から説明をしていただいた。

- ・酒蔵を活用して「七夕コンサート」を毎年行っている。
 - ・出演者は様々で、プロで活躍している方もいれば、プロでない方もいる。
 - ・始めた理由は、七夕という伝説にちなんだ日に文化的な夜を楽しむため。
 - ・酒蔵開きは通常真冬に行うが、酒造会社としては大変忙しく、このようなイベントを行うことはできない。気候も良く、参加しやすい時期に開催している。
 - ・集客は300人から400人程度。400人以上は会場に入ることができない。
 - 出演者はどうやって選んでいるか。
 - 自分たちで探している。
 - 文化芸術と産業の連携は珍しいように思う。
 - 酒蔵ツアー等も面白いのではないか。
 - 任意で事業所名を記入させることの必要性は。
- 今後の施策の展開のために、回答してくれた企業名を聞きたい。
- 公的な支援だけで文化芸術活動を充実させていくことは難しいと思うので、企業の支援が大切だと思う。意識調査を行うことで支援をしていただける企業を見つけることができるかもしれない。
 - 企業は明確なリターンがあると回答しやすいし、経済的な部分がないと動けないと思う。どういふことをやれば企業にメリットがあるか聞いてみてはどうか。

ウ. 文化団体等へのヒアリング項目について【資料3, 6】

文化団体等へのヒアリング項目(案)について事務局から概要の説明をした。

- ・市内の文化施設や社会教育施設の利用団体、福祉、教育等関連団体から30団体程度にヒアリング調査を行う。
- ・どのような文化芸術活動を行っているか、よりよい活動を行うためにはどんな支援を必要とするか等、文化芸術活動の現状と課題を把握したい。
- ・文化団体等には文化芸術活動が地域を活性化していることを再認識してもらい、今後も意欲的に活動していただけるよう導きたい。

- アンケート調査なのか、直接会ってヒアリングをするのか。
- 直接ヒアリングを行う。

- ヒアリングを行う対象は決まっているのか。
- 30団体程度の予定。当初は文化団体のみを対象と考えていたが、教育や医療関係等の団体も対象としていきたい。
- 直接ヒアリングを行うのであれば、話の流れでヒアリングシートにある質問以外の話を伺うこともできると思う。
- 島田らしさは大切だと思う。法律どおりに施策を組み立てていくと日本全国の市町村で同じような計画が策定されてしまうので、いかに島田らしさを出していくかが大切ではないか。
- 文化団体全般に言えることだが、若い人の参加が減り、高齢化が進んだことにより、団体としての活動力が落ちてきている。青年団や老人クラブがなくなってしまう地域もあり、文化団体も同じような状況になってしまわないかと危惧している。
- 文化協会では展示部門が活発に活動しているように思う。写真や美術、書道等、ホールでの活動より展示が占める割合が大きいように思う。

(5) その他

- ・ 本日の協議内容を踏まえ修正した調査票（案）を策定委員会に諮り、意識調査を進めていく。
- ・ 次回の委員会開催は1月18日を予定している。
- ・ 各設問案について、さらに意見がある場合は文化課までご連絡いただきたい。

(6) 閉会